神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

バルト諸語訳ルター・小カテキズム研究序説：ラトヴィア語訳(1586)vs.ドイツ語原文対照テキスト

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 1998-09-30
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 井上, 幸和, Inoue, Toshikazu
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1691

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

バルト諸語訳ルター・小カテキズム研究序説

——ラトヴィア語訳（1586）vs. ドイツ語原文対照テキスト——

井　上　幸　和

緒　　言

古プロシア語残存言語資料の中核をなすのは，マルティン・ルターの小カテキズム kleine Katechismus，いわゆるエンキリディオン Enchiridion の古プロシア語訳である。残余の言語資料に比して，相対的に大部のひとまとまりの資料であり，内容の性格上，使用語彙に偏りがあるとは言え，忠実に翻訳するという意味での「逐語訳」によって翻訳源であるドイツ語の文化的水準を古プロシア語に移した結果としてみるならば，この言語の研究にとってかけがえのない価値を有する資料であると言える。さらに，この資料の価値を高いものとしているのは，古プロシア語と同じ語派に属するリトアニア語およびラトヴィア語においても，それらの言語の歴史時代の最古層を反映する言語資料として，就中，同じルター・小カテキズムの両言語への翻訳文献が含まれるという事実である。この事実は，古プロシア語研究にとって幸いである。というのも，死語である古プロシア語にとって，この言語を実証する上で上述のような重要性を有するカテキズムの翻訳が，現行言語であるリトアニア語，ラトヴィア語それぞれの言語資料の最初期に属する同じカテキズムの翻訳を得て，古プロシア語訳のカテキズムが決してバルト諸語の最古層の言語資料の中で孤立した存在ではなく，（ほぼ）同一内容の他のバルト諸語の翻訳文献との比較・対照に耐え得るものとなるのである。同様のことは，リトアニア語史あるいはラトヴィア語史の研究にとって古プロシア語訳

カテキズムがもつ意義に関しても言えようが，筆者の観点からは，古プロシア語研究に対してリトアニア語訳，ラトヴィア語訳のルター・小カテキズムが有する意義をここに強調しておく。

古プロシア語の研究，とりわけ古プロシア語訳ルター・小カテキズムの研究の一環として，リトアニア語訳，ラトヴィア語訳のルター・小カテキズムを積極的な補助資料として取り込むことは，従って，研究のプロセスの中で余りにも自明の通過すべき里程標であることに間違いない。その際，いくつかの技術的な障害がありうる。そのひとつが，古プロシア語のそれと対比する目的で，リトアニア語，及びラトヴィア語のカテキズムをかなりの程度「加工」する必要のあることである。一方で，カテキズムの翻訳は，リトアニア語史およびラトヴィア語史にとってそれぞれ固有の意味を持ち，各々の言語の語史的研究において，独自に処遇されている。古プロシア語にとっての補助的言語資料として対照するにしても，それらを過度に「加工」することは極力避けるべきであろう。筆者は，バルト諸語3言語に共通の言語資料であるルター・小カテキズムの翻訳を，バルト諸語比較という，いわば，客観的な立場から対比しようとするものではない。その立場からの研究がそれなりの成果を約束するであろうことを，決して否定するわけではないが，むしろ，筆者の当初からの研究である古プロシア語言語資料に基づく内部的再構成の一つの展開が，バルト諸語訳ルター・小カテキズムの研究の意図するところであることを予め断っておきたい。

さて，本稿以降では，手始めとして，ラトヴィア語訳ルター・小カテキズムのテキストを，前述のような意図のもとに「加工」することになる。「加工」とは言っても，原テキストを本来の体裁から逸脱するような形に変形したり，あるいは当面は，従来の読みに対して筆者独自の解釈を加えて新たに校訂するというのでもない。そこで，ここで行う「加工」の意味とその目的を，少し具体的に説明しておく必要があろう。

原テキストがドイツ語であるルター・小カテキズムのバルト諸語訳を比較

対照するためには，一般的な問題として，翻訳の過程において生じる3言語によるテキスト間の異同をチェックすべきであることは言うまでもない。ここで，さらに生じるテキスト間の異同の要因として，果たして3言語への翻訳者が同一の原テキスト，すなわち同一のルター・小カテキズムを翻訳源として用いたか否か，という問題がある。古プロシア語訳とリトアニア語訳の小カテキズムの翻訳源に関しては，すでに議論のあるところであり，[1] ここでは詳述する余裕はないが，最終的に3言語にもとずくルター・小カテキズムのテキストを比較対照する際には，是非とも検討すべき問題である。まったく同様に，ラトヴィア語訳の小カテキズムに関しても，その翻訳源が問題になる。その意味で，3言語に共通する問題であり，同時進行的に解決していって然るべき性格の問題である。少なくとも筆者はそう考えて，この問題を明らかにすべく従来の議論を検討するとともに，3言語の翻訳テキストとドイツ語原文との対比のための具体的な作業を平行して進めてきた。その限りでは，ここに提出するラトヴィア語訳とドイツ語原文とのテキストの対比は，現在進行中である3言語の翻訳テキストとその翻訳源であるドイツ語原文との対照テキストの，未だ不完全な準備作業に過ぎない。それを敢えて提出するのは，今後の研究に関してきわめて重要な影響を与える知見が，ごく最近に得られたためである。

本年（1998年）3月24日付で，ラトヴィア大学のPeters Vanags氏から，ヴィリニュス大学で同6月2日に開催される同氏の学位請求論文の審査会のための論文abstractを送付された。[2] 全74ページの小冊子であるが，約48ペー

1） 古プロシア語訳ルター・小カテキズムの翻訳源の問題を直接に扱った研究としては，R. Trautmann, "Die Quellen der drei altpreussischen Katechismen und des Enchiridions von Bartholomaeus Willent", *Altpreußische Monatsschrift*, Band 46 (1909), 465-79. がある。古い研究であるが，この論文以降，この問題を直接に扱った研究は，管見の限りでは見あたらないし，現在に至るも示唆に富む重要な論文である。なお，そこではタイトルが示すとおり，ヴィレンタスがリトアニア語に翻訳したルター・小カテキズムの翻訳源についても検討されている。筆者が本論で念頭においているリトアニア語訳の最古のルター・小カテキズムの翻訳源を検討したものであるので，その意味でも貴重な論文である。

ジ分の英文での abstract 本体，およびその summary 約 4 ページ，さらにリトアニア語での abstract 20ページ分が付されている。筆者の観点からもきわめて興味深い研究内容であり，早い機会に論文本体が出版されることを期待しつつその abstract を読むうちに，現在の筆者にとって衝撃的とも言える記述が，目に入ってきた。しかも，かなりの確信を持って述べられている。すなわち，本稿で筆者が取り上げようとしているラトヴィア語訳のルター・小カテキズムに言及して，筆者がこれまで当然のことのように予想していたことと反して，ラトヴィア語訳がいわゆる高地ドイツ語によって書かれたルター自身の手になる小カテキズムのいずれかの版本に基づく直接の翻訳であるのではなく，ラトヴィア語訳の直接の翻訳源はルター・小カテキズムの低地ドイツ語訳である，という指摘である。[3] Abstract の性格上，具体的に実証しているわけではないが，低地ドイツ語の翻訳源に相当するテキストについてもほぼ同定しているようである。Vanags 氏の研究についてはこれまでもある程度把握しているつもりであったが，この重要な事実の指摘にうかつにも気がつかなかったことになる。いずれにしても，上記の指摘に直面して，筆者がこれまで行おうとしていたテキスト同定のための作業の意味を根底から考え直さざるを得なくなった。

幸いと言おうか，Vanags 氏は，低地ドイツ語訳のドイツ語テキストとそ

---

2) Abstract のタイトルは，Dr. Peteris Vanags, Latvian Texts from the Earliest Period (16th-17th Century): Translation Sources and some Problems of Phonology, Morphology, Syntax and Vocabulary. Summary of the Paper submitted for Dr. habil. Degree. Humanities: philology (04H), Vilnius 1998. である。少ない発行部数（70部）の 1 本を送付されたことに対して，Vanags 氏と Vilnius 大学の関係者に謝意を表したい。

3) 念のために，abstract の関連箇所を（英文から）引用しておく：“The 1586 translation of the “second” (or Luther's) catechism is based on some Low German edition of Luther's Small catechism. Of the Low German texts that we have examined, the closest is the defective copy in the Duke August library in Wolfenbuttel, which is dated at around 1544... (p.15); ... the Old Prussian catechism was translated from a High German original, whereas the Latvian text is based on a Low German version of Luther's catechism (p.45). なお，Vanags 氏は，学位請求論文の最終章（第 9 章）において，ラトヴィア語訳と古プロシア語訳のルター・小カテキズムを比較して，両者の共通点と相違点を検討していることが，同 abstract から窺える（pp. 51-52)。詳しい議論の程は，近く出版されるであろう学位論文をまって，稿を改めたいが，筆者にとって最も関心のあるところである。

の翻訳源である（本来の）ドイツ語原文との間の異同の綿密な検討までは行っていないようである。筆者の進行中の作業がVanags氏の一連の研究に対して何らかの意味があるとすれば，直接の翻訳源ではないものの，古プロシア語訳ならびにリトアニア語訳の同一テキストとの比較対照のための資料として作成される高地ドイツ語原文と（それの低地ドイツ語訳を介した）ラトヴィア語訳との対照テキストの提出が有する意味であろう。ともかくも，筆者の研究のプロセスとしては，いずれ行う必要のある作業に違いない。ただ，早急にそれを行う必要を感じている。

以上が，本来の目的であったドイツ語原文とラトヴィア語訳との逐語的な異同の対比を行うための資料としての対比テキストを，綿密な対比作業を経ない段階で急遽提出する理由である。

低地ドイツ語訳のルター・カテキズムなるものは，筆者にとって未知の資料である。いずれ近い将来にVanags氏によって低地ドイツ語訳のルター・カテキズムとラトヴィア語訳のそれとの綿密な対比が提出されるならば，ここでの対比テキストとそれに基づく今後の筆者による対比作業も，何らかの副次的な意味を持つことになる。

1998. 9

ドイツ語原文とラトヴィア語訳の対比テキスト

＜凡例＞

1．ドイツ語原文は，Die Bekenntnisschriften der evangelisch-lutherischen Kirche. Herausgegeben im Gedenkjahr der Augsburg Konfession 1930. 4. Durchgesehene Auflage. Göttingen, 1959. pp.501-541 掲載のルター・小カテキズムを底本として採用する。これは1931年刊のいわゆるヴィッテンベルク版に基づくテキストであるが，先後の諸版との異同が注に詳細に記載されており，今後，3言語の平行テキストを比較対照する上で，大きい便宜を与えるものである。

2．ラトヴィア語訳テキストは，ENCHIRIDIONS. Mārtiņa Lutera Mazais Katķisms no vācu valodas tulkots Ķensbergā 1586（Rīgā, Iespiests valstspapīru spiestuvē, 1924）を用いる。このテキストは，簡略化されたカテキズム（今のところドイツ語原文テキストは不明）である前半部（pp.9-25）と，ルター・小カテキズムに対応する後半部（pp.26-73）に分かれる。対比テキストとしてここに掲載するのは後者である。ページ付けは，原本でのページ付けとともに通番をかっこ内に付記する。また慣習に基づいて次ページ初頭語が前ページ欄外末尾に記載されているが，本テキストではこれを抹消する。

なお，この文献のファクシ・ミリ（1924年出版）は，ラトヴィア大学のVanags氏のご好意でコピーを送付いただいた。記して，謝意を表したい。

3．左ページにドイツ語原文，右ページにラトヴィア語訳を対応させ，原則として，段落の行頭を左右ページで空間的に揃える。単語単位の対応は表示していないので，複数行にわたる段落の場合，2行目以降は必ずしも完全な対応をなしていない。

4．ラトヴィア語訳テキスト中にドイツ語が散在する。多くは，「内容見出し項目」に類するものである。テキスト中，続けてラトヴィア語訳が付されている場合には，左右ページを対応させる便宜上，ドイツ語の部分はテキスト本文から削除し，適宜，注記する。但し必要と判断した場合にはテキスト本文中に残した。

Die zehen Gebot,
wie sie ein Hausvater seinem Gesinde einfältiglich furhalten soll.

Das erst.
Du sollt nicht ander Götter haben.

Was ist das? Antwort.
Wir sollen Gott über alle Ding fürchten, lieben und vertrauen.

Das ander.
Du sollt den Namen Deines Gottes nicht unnutzlich fuhren.

Was ist das? Antwort.
Wir sollen Gott fürchten und lieben, daß wir bei seinem Namen nicht fluchen, schweren, zaubern, liegen oder triegen, sondern denselbigen in allen Nöten anrufen, beten, loben und danken.

Das dritte.
Du sollt den Feiertag heiligen.

Was ist das? Antwort.
Wir sollen Gott fürchten und lieben, daß wir die Predigt und sein Wort nicht verachten, sondern dasselbige heilig halten, gerne hören und lernen.

[1] Te Desmette Bouße/ ka tös wenam Namme The- 3
wam ßouwe ßaime wenkärtige preexkan
turreeth vnd maczyt buus. 5
Tas pirmais Boußlis.
Töw nee buus Czittes Dewes tur-
reeth preexkan man.
Kas gir tas? Adbilde.
Mums buus Dewe pär wuesse lethe bytes/ 10
myleth/vnd vs to Czerreet.

（1）

Tas Oteers Boußlis.
Töw nee buus Dewe touwe Kunge
wärde neepattese walkooth.
Kas gir tas? Adbilde.
Mums buus Dewe bytes vnde myleeth/ka 5
mhes py winge wärde nhe ladam/needtcz nhe
pattese Dewe minnam/needtcz buryam/mhel-
loyam/ieb pewiliam/Beth to patte exkan wues-
sims Bhedims pesoutczam/luutczam/teitczam
vnd ßlaweiam. 10
Tas treschais Boußlis.
Thöw buus to sweete Dene swee-
tyt.
Kas gir tas? Adbilde.
Mums buus Dewe bytes/vnd myleeth/ka 15
mhes to predicke vnde winge wärde/nhe pul-
gayam/Beth to patte sweete thurram/labprath

1) Die heiligen zehen gebot Gottes.

Das vierde.

Du sollt Deinen Vater und Dein Mutter ehren.

Was ist das? Antwort.

Wir sollen Gott fürchten und lieben, daß wir unser Eltern und Herrn nicht verachten noch erzürnen, sondern sie in Ehren halten, ihn dienen, gehorchen, lieb und wert haben.

Das funfte.

Du sollt nicht töten.

Was ist das? Antwort.

Wir sollen Gott fürchten und lieben, daß wir unserm Nähisten an seinem Leibe keinen Schaden noch Leid tun, sondern ihm helfen und fodern in allen Leibesnöten.

Das sechste.

Du sollt nicht ehebrechen.

Was ist das? Antwort.

Wir sollen Gott fürchten und lieben, daß wir keusch und züchtig leben in Worten und Werken und ein iglicher sein Gemahl lieben und ehren.

Das siebend.

Du sollt nicht stehlen.

czirdam/vnd maetczam.

Tas Cettortz Boußlis.

Thöw buus touwe Thewe vnd

C iij (2)

touwe Mathe czenit/ka thöw labbe
klaias/vnd tu JIge cziwo wuersson
Semmes.

Kas gir tas? Adbilde.

Mums buus Dewe bythes vnde myleeth/ 5
ka mhes muße whetczakes vnde kungcs nhe
pulgoyam/nedtcz apkaytenayam. Beth tös ex-
kanGode thurram/tems kalpoyam/packlou-
ßam/myleyam/vnde czenyam.

Tas Pecktz Boußlis. 10

Töw nhe buus nokout.

Kas gir tas? Adbilde.

Mums buus Dewe bytes vnd myleeth/
ka mhes mußam Tuwakam py winge Meße
neewene lixte/nedtcz wayne darram/Beth 15
tham pallidtczam vnde kalpoiam/exkan wue-
ßims meße bhedims.

Tas Sestz.

Töw nhe buus loulibe pärkaapt.

Kas gir tas? Adbilde. 20

Mums buus Dewe bytes vnde myleeth/ka
mhes skyste vnd kounige cziwoyam/exkan
wärdims vnd Darbims/vnde ka Jckwens
ßouwe loulathe Drouge myle thur/vnd gode.

(3)

Das Septyz Boußlis

Thöw nhe buus Sackt.

Was ist das? Antwort.

Wir sollen Gott fürchten und lieben, daß wir unsers Nähisten Geld oder Gut nicht nehmen noch mit falscher War oder Handel an uns bringen, sondern ihm sein Gut und Nahrung helfen bessern und behüten.

Das achte.

Du sollt nicht falsch Zeugnis reden wider Deinen Nähisten.

Was ist das? Antwort.

Wir sollen Gott fürchten und lieben, daß wir unsern Nähisten nicht fälschlich beliegen, verraten, afterreden oder bösen Leumund machen, sondern sollen ihn entschüldigen und Guts von ihm reden und alles zum Besten kehren.

Das neunde.

Du sollt nicht begehren Deines Nähisten Haus.

Was ist das? Antwort.

Wir sollen Gott fürchten und lieben, daß wir unserm Nähisten nicht mit List nach seinem Erbe oder Hause stehen und mit eim Schein des Rechts an uns bringen etc., sondern ihm, dasselbige zu behalten, forderlich und dienstlich sein.

Das zehende.

Du sollt nicht begehren Deines Nähisten Weib, Knecht, Magt, Viehe oder was sein ist.

Kas gir tas? Adbilde.

Mums buus Dewe bytes vnde myleeth/
ka mhes muße Tuwaka Noude lib paddome
nhe yemmam/nedtcz ar wiltige Preetcze lib
predtczeeschenne py mums whelkam/Beth tam
winge paddome vnde vsturreschen pallydtczam
peaugleeth vnde passargath.

Tas Astotz Boußlis.

Thöw nhe buus nhepattese Letczi-
be doth/prettibe touwe Tuwake.

Kas gir tas? Adbilde.

Mums buus Dewe bytes vnde myleeth/ka
mhes muße Tuwake nhe wiltige apmhelloyam
nedtcz aptreessam ieb wene loune ßlawe dar-
ram/Beth mums buus to aisbildeeth/wuesse
labbe nho to ßatcyt/vnde wuesse lethe par
labbe gresthe.

Tas Doeuwytz Boußlis.

Thöw nhe buus ekarot touwe Tu-
wake Namme.

Kas gir tas? Adbilde.

(4)

Mums buus Dewe bytes vnde myleeth/
ka mhes mußam Tuwakam nhe ar wilte peetcz
winge Mante yeb Namme sthawam/vnde ar
spidibe thäs Teses py mums nhe whelkam etc.
Beth tam pallydtczam/vnde pakalpige eßam/
ka tas to pattur.

Tas Desineetz Boußlis.

Thöw nhe buus ekaroth touwe
Tuwake Czewe/Kalpe/Kalpune/
lope/ieb wuesse kas tam peder.

Was ist das? Antwort.

Wir sollen Gott fürchten und lieben, daß wir unserm Nähisten nicht sein Weib, Gesind oder Viehe abspannen, abdringen oder abwendig machen, sondern dieselbigen anhalten, daß sie bleiben und tun, was sie schüldig sind.

Was saget nu Gott von diesen Geboten allen?

Antwort.

Er saget also:

Ich, der HERRE Dein Gott, bin ein eiferiger Gott, der über die, so mich hassen, die Sund der Väter

heimsucht an den Kindern bis ins dritte und vierde Gelied. Aber denen, so mich lieben und meine Gebot halten, tu ich wohl in tausend Gelied.

Was ist das? Antwort.

Gott dräuet zu strafen alle, die diese Gebot übertreten, darumb sollen wir uns fürchten für seinem Zorn und nicht wider solche Gebot tun. Er verheißet aber Gnade und alles Guts allen, die solche Gebot halten, darumb sollen wir ihn auch lieben und vertrauen und gerne tun nach seinen Geboten.

Der Glaube,

wie ein Hausvater denselbigen seinem Gesinde aufs einfältigest furhalten soll.

Kas gir tas? Adbilde.

Mums buus Dewe bytes vnde myleeth/
ka mhes mußam Tnwakam winge Szewe/
Szaime/ieb lopes nhe noyoutczeyam/ieb nhe
nospescham/Beth tös pattes peminnam/ka 15
the palleck vnd der/kas thems peder.

Ko ßack nu Dews no wuessims schims
Boußlims? Adbilde.

Es tas Knnx tows Dews/esme
wens dusmyx Dews/katteers paer 20

(5)

tems/kattre man enaidan tur tös
Thewe Greekes mayas pemeckle/py
tems Bhernems/exkan to tressche vn-
de czettorte Augumme/Beth tems/
kattre man mylo/vnd mannes Bouß- 5
les thur/darre es labbe exkàn tuuxto-
sche Augumme.

Kas gir tas? Adbilde.

Dews bedena ßodyth/wuesses kattre schoos
Boußles pärkape/Tapeetcz buus mums bytes 10
par winge dusmibe/vnde prettibe thadems
Boußelems nhe darryth. Beth tas ßoly Szee-
lestibe/vnde wuesse labbe/wuessems/kattre
schös Boußles thur/Tapeetcz buus mums to
arridtczan myle thurreet/vnd tam palloutes/ 15
vnde labprat darryt/peetcz wingems Boußles.
[2] Ta Titczibe/ka to wenam Namme
thewam ßouwe Szaime wenkärtige

2) Der Glaube.

Der erste Artikel von der Schepfung.

Ich gläube an Gott, den Vater allmächtigen, SCHEPFER Himmels und der Erden.

Was ist das? Antwort.

Ich gläube, daß mich Gott geschaffen hat sampt allen Kreaturn, mir Leib und Seel, Augen, Ohren und alle Gelieder, Vernunft und alle Sinne gegeben hat und noch erhält, dazu Kleider und Schuch, Essen und Trinken, Haus und Hofe, Weib und Kind, Acker,

Viehe und alle Güter, mit aller Notdurft und Nahrung dies Leibs und Lebens reichlich und täglich versorget, wider alle Fährligkeit beschirmet und für allem Ubel behüt und bewahret, und das alles aus lauter väterlicher, göttlicher Güte und Barmherzigkeit ohn alle mein Verdienst und Wirdigkeit, des alles ich ihm zu danken und zu loben und dafür zu dienen und gehorsam zu sein schüldig bin; das ist gewißlich wahr.

Der ander Artikel von der Erlösung.

Und an Jesum Christum, seinen einigen Sohn,

preschan thurreeth vnde maetcyt 20
buhs.

D (6)

Tas pirmais Lodczeklis no täs Kad-
dischennes.

Es titcz exkan Dewe to Thewe/
wuessewalditaye/Radditaye/Deb-
bes vnde thäs Semmes. 5

Kas gir tas? Adbilde.

Es titcz ka man Dews raddys gir/ar wues-
sims Kadditims letims/vnde man Meße vnd
Dwhesel/Atczees/Außes/vnde wuesses
Lodtczeklees/Szapprasschenne/vnd wuesses 10
Prates doeuwis gir/vnde wehl vsthur/tur-

(7)

klath Dreebes vnde kurpes/Ehschen vnde
Sczeerschen/Namme vnde Muysche/Szewe
vnde Bhernes/Tyrumme/Lopes/vnde wnes-
se Paddome ar wuessade wayadtczibe/vnde
vsthurreschenne thäs Meßes vnde Cziwibes/ 5
Bagatige vnde deniske abgada/prettibe wuesse
bresmibe passarge/vnd par wuesse loune pag-
laeb vnde ßarge/Vnde to wuessenotal/aran
tyre Thewige/dewige laipnibe/vnde Szeelesti-
be/bes wuesse manne nopelnibe vnde czenibe. 10
Par scho wuessenotal esme es tam parradan
patteickt/vnd ßlawet/kalpot vnd packlousit/
Tas gir tescham tesa.

Tas Oteers Loczeklis no thäs Pesti-
schennes. 15

Vnde exhan Jesum Cchristum

unsern HERRN, der empfangen ist vom heiligen Geist, geboren von der Jungfrauen Maria, gelitten unter Pontio Pilato, gekreuziget, gestorben und begraben, niedergefahren zur Hellen, am dritten Tage auferstanden von den Toten, aufgefahren gen Himmel, sitzend zur Rechten Gottes, des allmächtigen Vaters,

von dannen er kommen wird, zu richten die Lebendigen und die Toten.

Was ist das? Antwort.

Ich gläube, daß Jesus Christus, wahrhaftiger Gott vom Vater in Ewigkeit geborn und auch wahrhaftiger Mensch von der Jungfrauen Maria geborn, sei mein HERR, der mich verlornen und verdammpten Menschen erlöset hat, erworben, gewonnen und von allen Sunden, vom Tode und von der Gewalt des Teufels nicht mit Gold oder Silber, sondern mit seinem heiligen, teuren Blut und mit seinem unschüldigen Leiden und Sterben, auf daß ich sein eigen sei und in seinem Reich unter ihme lebe und ihme diene in ewiger Gerechtigkeit, Unschuld und Seligkeit, gleichwie er ist auferstanden vom Tode, lebet und regieret in Ewigkeit; das ist gewißlich wahr

Der dritte Artikel von der Heiligung.

wingam wenigam Dhelam mußam
Kungam katteers eyemptz gir no to
Sweete Garre/peczimmis no thäs
Jumprouwes Marie/Czetis appes- 20
kan Pontio Pilato krustan ßystz/
nomuerris vnde apbhestz Semmenka-

Dij (8)

pis exkan Helles/tresschen denan at-
kalt auxkam czheles no tims Muerro-
nims. Vs kapis debbessis/seedhe py to
labbe Roke/Dewe tha wuessewaldi-
taye Thewe/no thurrenes thas atees 5
ßodyt tö Cziwes vnde Muerrunnes.

Kas gir tas? Adbilde.

Es titcz ka Jesus Christus pattese Dews/no
Thewe exkan mußibe peczimptz/vnd arridtczan
pattese Czilwhex no thäs Jumpouwes Ma- 10
rie peczimmis/mans Kunx gir/katters man
paßuste vnde noladhete Czilwheke atpestys gir/
no wuessims Greekims/no Nawe/vnde no to
warre vnde Speeke to whelne/nhe ar Szelte
ieb Sziddrabbe/beth ar ßouwe darge Assenne/ 15
vnd ar ßouwe neeno ßeetczige Czeschenne vnde
Nawe/ka es winge passche esme/vnde exkan
winge Walstibe appeskan to Cziwo/vnde
tam kalpo exkan mußige Taisnybe/Nenoßeczy-
be vnde Sweetybe/lidtcz ka thas gir atkal vs 20
czheles/no Nawe/cziwo vnde walde mußige/
Tas gir tescham tese.

(9)

Tas tressches Loczeklis/no täs Swee-

Ich gläube an den heiligen Geist, ein heilige christliche Kirche, die Gemeine der Heiligen, Vergebung der Sunden, Auferstehung des Fleisches und ein ewiges Leben, Amen.

Was ist das? Antwort.

Ich gläube, daß ich nicht aus eigener Vernunft noch Kraft an Jesum Christ, meinen Herrn, gläuben oder zu ihm kommen kann, sondern der heilige Geist hat mich durchs Evangelion berufen, mit seinen Gaben erleuchtet, im rechten Glauben geheiliget und erhalten, gleichwie er die ganze Christenheit auf Erden berüft, sammlet, erleucht, heiliget und bei Jesu Christo erhält im rechten einigen Glauben, in welcher Christenheit er mir und allen Gläubigen täglich alle Sunde reichlich vergibt und am jüngsten Tage mich und alle Toten auferwecken wird und mir sampt allen Gläubigen in Christo ein ewiges Leben geben wird; das ist gewißlich wahr.

Das Vaterunser,

wie ein Hausvater dasselbige seinem Gesinde aufs einfältigest furhalten soll.

tischennes.

Es titcz exkan to sweete Garre/wena sweeta Chrustyta Basnicze/tha drougczibe thös Szweetes/Pammesschen thös Greekes/auxkam czelschenne thäs Meßes/vnd wene mußige Cziwoschenne/Amen.

Kas gir tas? Adbilde.

Es titcz/ka es ar manne passche Szapprasschenne needtcz Speetczibe exkan Jesum Christum manne Kunge/neewar titczeth lib pyto naeckt/Beth tas Sweetcz Gars gir man czour to Euangelium aytcenays/ar ßouwims Dawanims paskaydroys/exkan pattese Titczibe sweetys/vnd vs thurreys/lydtcz ka thas to wuesse chrustite Drougczibe wuerßon semmes/aytczena/ßackraye/abskaydro/Sweety/vnd py Jesu Christo vsthur/exkan wene patthese Titczibe. Exkan kattre Chrustite Droudczibe thas man vnde wuessuns Titczigims deniske wuesses Greekes pammeet/vnde exkan to Pa-

Diij (10)

stare dene man/vnd wuesses Muerrones atkal vsmodenas/vnd man/ar wuessuns Titczigims exkan Christo/wene mußige Cziwoschenne dhos/Tas gir tescham tesa.

[3] Ta Lueckschenne/ka to wenam Namme Thewam ßouwe ßaime wenkärtige prexkan thurreet vnde mätcyt

3) Das heilige Vater vnser.

Vater unser, der Du bist im Himmel.

Was ist das? Antwort.

Gott will damit uns locken, daß wir gläuben sollen, er sei unser rechter Vater und wir seine rechte Kinder, auf daß wir getrost und mit aller Zuversicht ihn bitten sollen wie die lieben Kinder ihren lieben Vater.

Die erste Bitte.

Geheiliget werde Dein Name.

Was ist das? Antwort.

Gottes Name ist zwar an ihm selbs heilig, aber wir bitten in diesem Gebet, daß er bei uns auch heilig werde.

Wie geschicht das? Antwort.

Wo das Wort Gottes lauter und rein gelehret wird und wir auch heilig als die Kinder Gottes darnach leben; des hilf uns, lieber Vater im Himmel. Wer aber anders lehret und lebet, denn das Wort Gottes lehret, der entheiliget unter uns den Namen Gottes; da behüt uns für, himmlischer Vater.

Die ander Bitte.

Dein Reich komme.

Was ist das? Antwort.

Gottes Reich kömmpt wohl ohn unser Gebet von ihme selbs, aber wir bitten in diesem Gebet, daß auch

buhs.

(11)

Muße Thews exkan to Debbes.
Kas gir tas? Adbilde.
Dews grib ar to mums Jouczheet/ka mums
titczeet buus/Tas gir muße ystens Thews/vn-
de mhes winge ystenne Bherne/ka mums pre- 5
cige vnde ar wuesse palouschenne/to luckt buus/
ka te mylige bherne ßouwe myle Thewe ludtcze.
Ta Pirma Luuckschenne.
Sweetytz thope tows Wärdtcz.
Kas gir tas? Adbilde. 10
Dewe wärdtcz gir tescham py ßöw par-
tim Sweetcz/Beth mhes luundtczam exkan
scho Luuckschenne/ka tas py mums arridtczan
Sweetcz thope.
Ka noteke tas? Adbilde. 15
Kad tas Dewe wärdtcz skyste vnde skaidre
mätcytcz thope/vnde mhes arridtczan sweete/
kha te Dewe bherne peetczto cziwoyam/tho
pallydtcz mums myleis Thews exkan Debbes.
Beth kas czittade maetcze vnde cziwo/kha tas 20
dewe wärdtcz maetcze/tas nee swety starpan
mums to Dewe wärde. No to passarge mums
myleis Debbesse Thews.

(12)

Ta Otra Luuckschenne.
Enakas mums touwe Walstibe.
Kas gir tas? Adbilde.
Dewe Walstybe näck gan bes muße Luuck- 5
schenne/no ßöw partim/Beth mhes luudtczam

zu uns komme.

Wie geschicht das? Antwort.

Wenn der himmlische Vater uns seinen heiligen Geist gibt, daß wir seinem heiligen Wort durch seine Gnade gläuben und göttlich leben, hie zeitlich und dort ewiglich.

Die dritte Bitte.

Dein Wille geschehe wie im Himmel, also auch auf Erden.

Was ist das? Antwort.

Gottes guter, gnädiger Wille geschicht wohl ohn unser Gebet, aber wir bitten in diesem Gebet, daß er auch bei uns geschehe.

Wie geschicht das? Antwort.

Wenn Gott allen bösen Rat und Willen bricht und hindert, so uns den Namen Gottes nicht heiligen und sein Reich nicht kommen lassen wollen, als da ist der Teufel, der Welt und unsers Fleischs Wille, sondern stärket und behält uns feste in seinem Wort und Glauben bis an unser Ende; das ist sein gnädiger, guter Wille.

Die vierde Bitte.

Unser täglich Brot gib uns heute.

Was ist das? Antwort.

exkan schäs Luuckschennes/ka ta arridtczan py mums näcke.

Ka noteke tas? Adbilde.

Kad mums tas debbesse Thews/ßouwe Sweete Garre dode/ka mes wingam sweetam wärdam/czour winge ßeelestibe titczam/vnde dewiske cziwoyam/Scheit laykige vnd tur mußige.

Ta Tresscha Luuckschenne.

Tows Prätcz noteke/kha exkan Debbes/Tha aridtczan wuerßon Semmes.

Kas gir tas? Adbilde.

Dewe labs vnd ßeelyx prätcz/noteke gan beß muße luuckschenn/Beth mhes ludtczam exkan scho luuckschenne/ka thas arrydtczan py mums noteke.

(13)

Ka noteke tas? Adbilde.

Kad Dews wuesse loune Paddome/vnde präte atwersche/vnde nhe pelaische/kattre mums to Dewe wärde nhe sweetyt/vnde winge Walstibe nhe leeck näckt/Ka tur gir tas Whelns/Ta passoule/vnde mußes Meßes Egribbeschen/Beth estipprena vnd patthur mums stippre exkan ßouwe wärde vnde Titczibe/Js mußam gallam/Tas gir winge Szeelyx vnd labs Prätcz.

Ta Czettorta Luuckschenne.

Muße Deniske Mayse dode Mums Schodene.

Kas gir tas? Adbilde.

Gott gibt täglich Brot auch wohl ohn unser Bitte allen bösen Menschen, aber wir bitten in diesem Gebet, daß er uns erkennen lasse und mit Danksagung empfahen unser täglich Brot.

Was heißt denn täglich Brot? Antwort.

Alles, was zur Leibsnahrung und -notdurft gehört als Essen, Trinken, Kleider, Schuch, Haus, Hof, Acker,

Viehe, Geld, Gut, frumm Gemahl, frumme Kinder, frumm Gesinde, frumme und treue Oberherrn, gut Regiment, gut Wetter, Friede, Gesundheit, Zucht, Ehre, gute Freunde, getreue Nachbarn und desgleichen.

Die funfte Bitte.

Und verlasse uns unser Schulde, als wir verlassen unsern Schuldigern.

Was ist das? Antwort.

Wir bitten in diesem Gebet, daß der Vater im Himmel nicht ansehen wollt' unser Sunde und umb derselbigen willen solche Bitte nicht versagen; denn wir sind der keines wert, das wir bitten, haben's auch nicht verdienet, sondern er wollt's uns alles aus Gnaden geben; denn wir täglich viel sundigen und wohl eitel Strafe verdienen; so wöllen wir zwarten wiederumb auch herzlich vergeben und gerne wohl tun, die sich an uns versundigen.

Dews dode to deniske Mayse/arridtczan 15
bes muße Luuckschenne wuessims lounims Czil-
whekims/Beth mhes luudtczam exkan scho
Luuckschenne/ka tas mums muße deniske May-
se adßyth leke/vnde ar patteitczibe yempt.
Ko dhewe tad deniske Mayse? Adbilde. 20
Wuesse kas py thäs Meßes vsthurreschen-
nes vnde Wayaczibes pedeer/ka ehschanne/

E (14)

Sczerschanne/Drebes/Kurpes/Namme/
Muysche/Tyrumme/Lope/Noude/Paddome/
wens labs loulätz Droux/Labbe Bherne/labbe
Szaime/vnde petitczamme Wuerßeneke/
wena labba Waldischenne/labs Gayß/Mers/ 5
Wesselibe Kounige/czywoschenne/Gode/Lab-
be drouge petitczame Kazmine/vnde ta pro-
iam.
Ta Peketa Luuckschenne.
Vnde pammeth mums muße Par- 10
rade kha mhes pammettam mußims
Parradenekims.
Kas gir tas? Adbilde.
Mhes luudtczam exkan schäs Luuckschen-
nes/ka tas Thews exkan Debbes/nhe grib vs 15
lukooth Mußes/Greekes/vnd thö peetcz/tha-
de Luuckschenne mums aysleckt/ästo mhes nee
eßem to czenige/ko mhes luudtczam/nedtcz
eßem arrydtczan nopelnische/Beth thas grib
to mums wuessenotal aran Szeelestibe doth/ 20
Aesto mhes greekoyam deniske doudtcze/vnde
nopelnam nhe neke ka Szodibe wen/Tha grib-
bam mhes arridtczan to atkal no Szyrde lab-
prath pammeest/vnde labbe darryt/tims/kattre

Die sechste Bitte.

Und fuhre uns nicht in Versuchung.

Was ist das? Antwort.

Gott versücht zwar niemand, aber wir bitten in diesem Gebet, daß uns Gott wollt' behüten und erhalten, auf daß uns der Teufel, die Welt und unser Fleisch nicht betriege und verführe in Mißglauben, Verzweifeln und ander große Schande und Laster und, ob wir damit angefochten würden, daß wir doch endlich gewinnen und den Sieg behalten.

Die siebende Bitte.

Sondern erlöse uns von dem Ubel.

Was ist das? Antwort.

Wir bitten in diesem Gebet als in der Summa, daß uns der Vater im Himmel von allerlei Ubel Leibs und Seele, Guts und Ehre erlöse und zuletzt, wenn unser

Stündlin kömmpt, ein seliges Ende beschere und mit Gnaden von diesem Jammertal zu sich nehme in den Himmel.

Amen.

Was ist das? Antwort.

Daß ich soll gewiß sein, solche Bitte sind dem Vater im Himmel angenehme und erhöret; denn er selbs hat uns geboten, also zu beten, und verheißen, daß er uns will erhören. Amen, Amen, das heißt: Ja, Ja, er soll also geschehen.

ßoew prettibe mums apgrekoyas.

Ta Szelta Luuckschenne.

Vnde nhe wedde mums exkan Kär-
denaschenne. 5

Kas gir tas? Adbilde.

Dews nee kärdena neewene/beth mhes
luudtczam exkan schäs Luuckschennes/ka/mums
Dews grib paglabt vnde vsthurreet/ka mums
tas Whelns ta Passoule vnde mußa Meßa nhe 10
pewil vnde nhe wadda exkan Netitczibe Jßa-
misschenne/vnde czitte lele koune vnde greeke/
vnde Ja mhes ar to kärdenate topam/ka mhes
peetcz gallige vs warram/vnde to czixteschen-
ne patthurram. 15

Ta Septita Luuckschenne.

Beth atpesty mums no to Loune.

Ka noteke tas? Adbilde.

Mhes Luudtczam exkan schäs Luuckschen-
nes/ka mums tas Thews exkan Debbes no 20
wuessade loune thäs Meßes vnde thäs Dwhe-

Eij (16)

selles/to Paddome vnd to Gode grib atpestyt/
vnd peetcz kad mußa Stunde nake wene ßeli-
ge gaile doth/vnd ar Szeelestibe no scho bhedi-
ge Passoule/pz ßoew yempt exkan to Debbes.

AMEN. 5

Kas gir tas? Adbilde.

Ka man buus tescham titczeeth/thade Luuck-
schenne gir tham Thewam exkan Debbes pa-
prate/vnd paklousite/ästo thas gir mums patcz
pawheleis tha luuckt/vnde peßatcys/ka thas 10
mums grib packlousyt. Amen/Amen/tas dhewe
Ja/Ja/tam buhs ta notickt.